

COVID-19患者に対する 緊急度・重症度判定基準 Version 1 [図表資料]

一般社団法人 日本臨床救急医学会
一般社団法人 日本救急医学会
2020.5.12

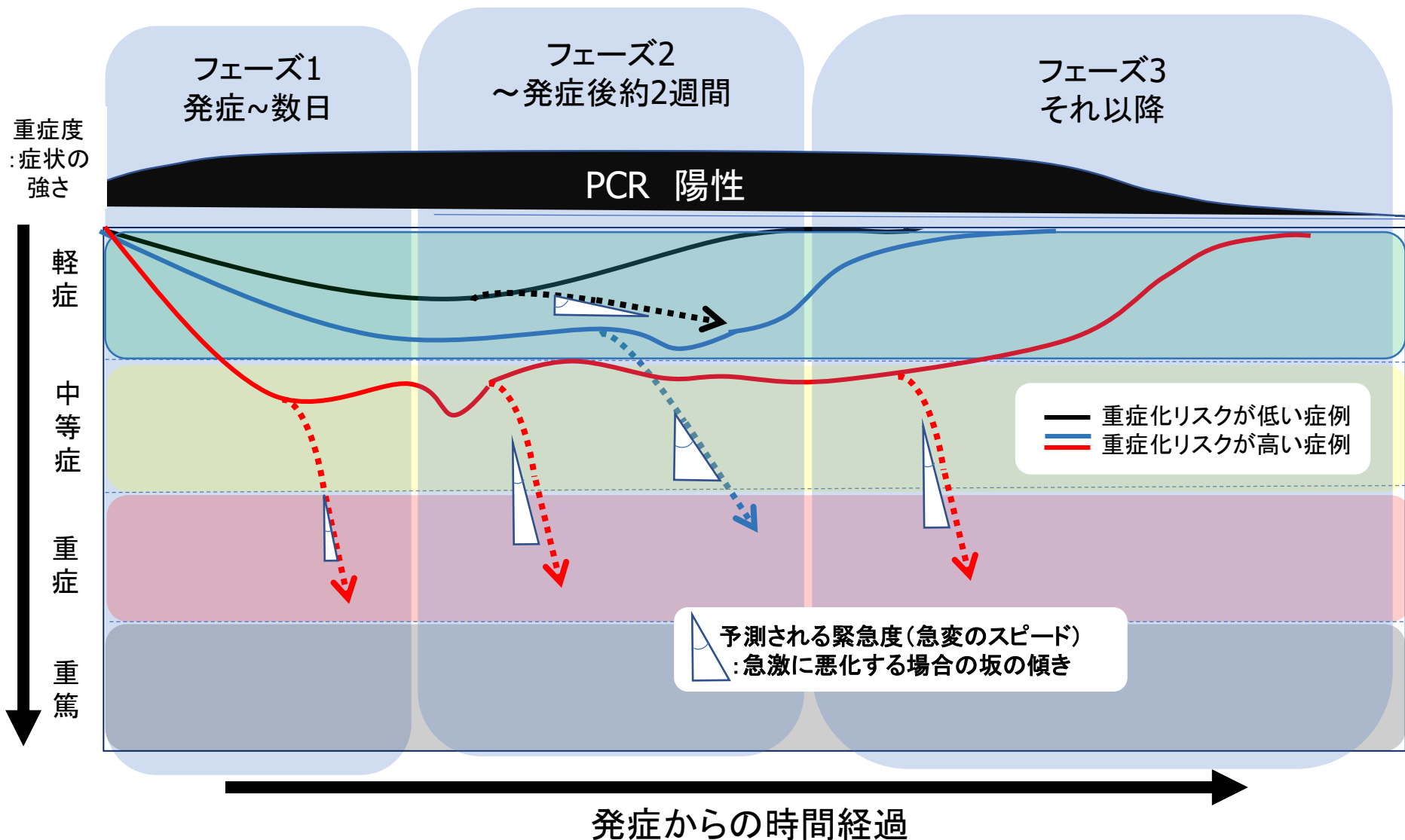


図1. COVID-19の重症度、重症化リスク、発症からの時間と緊急度

緊急度が高い=急変(急激に悪化)するリスクが高い

表1. COVID-19流行期における発熱・呼吸器症状などを主訴とする症例の重症度

重症度	発熱、咳、呼吸困難などの症状
重篤	顔色が明らかに悪い、唇が紫色になっている、(表情や外見等が)いつもと違う、様子がおかしい、息が荒くなった、急に息苦しくなった、日常生活で少し動いただけで息苦しい、胸の痛みがある、横になれない、座らないと息ができない、肩で息をしている 意識がおかしい、意識がない
重症	通常の日生活動作に支障をきたしている 常に咳がひどい、または痰が多い、または発熱が持続している または経験したことのないひどい全身倦怠感がある
中等症	日常生活動作は可能であり、かつ発熱および咳・感冒様症状が常に持続している または全身倦怠感がある
軽症	日常生活動作は可能であり、かつ発熱・咳・感冒様症状は軽い または味覚障害がある、または鼻が詰まっていないのに嗅覚障害がある または軽い全身倦怠感がある

表2. 発症の定義・重症化リスク

- 発症: 下記の症状が出現した時点
 - 発熱(※)、咳、咽頭痛、全身倦怠感、味覚障害など
 - ※発熱の定義: 平熱プラス1~1.5°C以上
- 重症化リスク
 - 基礎疾患(高血圧、重症心疾患、COPD等の慢性呼吸器疾患、肝疾患、糖尿病など)、悪性腫瘍、免疫抑制剤使用、妊婦、透析、肥満、65歳以上
- 高: 上記項目のいずれか1つを有する
- 低: いずれも有さない

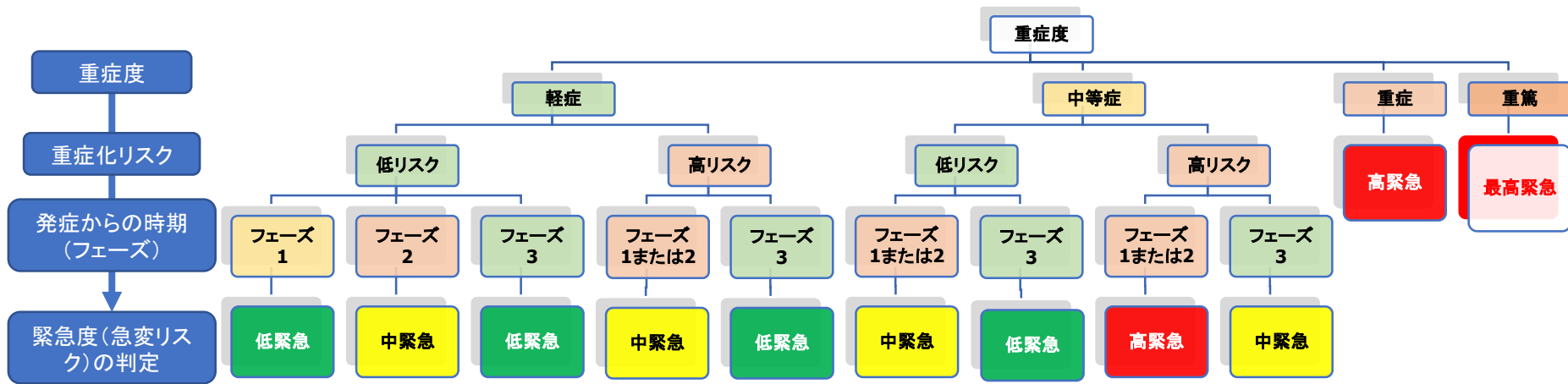
表3-a. 重症度、重症化リスクと発症からの時間に基づく緊急度

緊急度高い=急変の可能性が高い・重症化のスピードが速い可能性がある

重症度	重症化リスクの有無	緊急度(急変リスク)判定の時期の目安		
		フェーズ1 発症～数日	フェーズ2 ～発症後約2週間	フェーズ3 それ以降
重篤	問わない	最高緊急		
重症	問わない	高緊急		
中等症	あり	高緊急	高緊急	中緊急
	なし	中緊急	中緊急	低緊急
軽症	あり	中緊急	中緊急	低緊急
	なし	低緊急	中緊急	低緊急

表3-b. 緊急度の判定フロー

緊急度高い=急変の可能性が高い・重症化のスピードが速い可能性がある



フェーズ1: 発症～数日
 フェーズ2: ～発症後約2週間
 フェーズ3: それ以降

表4. 緊急度と重症度に応じたフェーズごとの入院・療養先(例)

重症度	重症化 リスクの 有無	フェーズごとの入院・療養先		
		フェーズ1 発症～数日	フェーズ2 ～発症後約2週間	フェーズ3 それ以降
重篤	問わない	集中治療管理(感染症指定病床・個室等)(最高緊急)		
重症		感染症指定医療機関・特定機能病院等の病床(高緊急)		
中等症	あり			その他の医療機関の 一般病床(中緊急)
	なし	その他の医療機関の一般病床(中緊急)		その他の医療機関の 一般病棟(低緊急)
軽症	あり			
	なし	宿泊療養(低緊急)	宿泊療養(中緊急)	宿泊療養(低緊急)